



とよはし

市電文化

発行所 第50号

〒440-0888

豊橋市駅前大通2-48
(名豊ビル6F 名豊ギャラリー内)

とよはし市電を愛する会

☎ 0532-51-5610

FAX 0532-51-5620

www.toyohasisiden.com

みんなの力で 実現させよう! 豊橋LRT ゆめ路線を!

未来の豊橋LRTゆめ路線図

- 既設路線
- 第1次ゆめ路線
- 第2次ゆめ路線



市民の声を集約した 「近未来の豊橋LRTゆめ路線」

とよはし市電を愛する会会長 伊奈 彦定

「乗ろう!のぼそう!みんなの市電」これとはよはし市電を愛する会のキャッチフレーズです。人と環境に優しいLRT(新システム路面電車)は21世紀の都市公共交通機関として世界でも日本でも注目されています。21世紀に入り世界でLRTを敷設した都市は50都市以上といわれています。日本では富山ライトレールですが、これから敷設構想を持っている都市は宇都宮、横浜、京都、名古屋など十数都市に及びます。しかし、建設経費など試算すると地方都市ではそう簡単ではありません。こう考えていくと既存の路面電車を持つ豊橋市は貴重な存在です。すこい社会資産を有する都市といえます。あとはLRTに向けて改善、発展を図れば地域公共交通の先進都市となり得ます。モーターリゼーションはマイカーの普及を促し、便利な個人生活に貢献してきました。しかし、多発する交通事故、渋滞の慢性化、駐車場不足、中心市街地の空洞化等々、公共生活へのリスクも大きいことも事実です。将来を見据えたまちづくりでは、豊橋地図を俯瞰して動脈としてのLRTと、マイカーとの理想的な共存こそ切り札となります。パーク&ライド(郊外型駅駐車場)やトランジットモール(LRTと歩行者専用道路)などです。さて、次世代のためにも今私たちが50年後くらいを視野に一歩を踏み出す時だと思っています。まず現実的な赤岩口からの路線延伸計画をとよはし市電を愛する会として提案します。行政・鉄道事業者・市民が一つになつて豊橋の公共交通アクセスの将来を構想することが大切です。市電を愛する会はこの20年間に寄せられた市民の声をまとめると上図のようになります。やがて架線のない軽量車体で、コンピューター制御とGPSによる便利で安心・安全な無人運転のLRT時代がやってきます。その時をめざして開発研究が着々と進められていくことでしょう。

第13回中部地区路面電車サミット 路面電車サミットin高岡

平成26年7月26日(土) 7時45分、豊橋駅へ伊奈会長、鈴木国雄顧問等9名が集合、福井道子さんが紅一点参加、名古屋で加藤事務局長が加わり、予定通り11時35分高岡につき、昼食後一部のメンバーは国宝高岡山瑞龍寺を見学し、開会宣言の13時45分迄にサミット会場のウイング・ウイング高岡に滑り込む。

会場の高岡市生涯学習センターホールは豊橋のプラットを少し小振りにした規模であるが明るくて中部サミットには適していた。参加者は約300名で、多くの人が高岡以外からの参加である。

サミットのテーマは「**鉄道を繋ぐ軽快都市**」13時15分から13時35分迄、ウエルカムステージとして船橋市のシンガソングライター高橋涼子さんによる歌(引き語り)があった。

13時45分から、高橋高岡市長の歓迎の挨拶があり、14時から15時15分まで「各地からの報告に学ぶ軽快都市」と題し公共交通のネットワーク構築とまちづくりのあり方について、4名による報告が行われた。

1. 万葉線高岡駅ビル乗り入れ、万葉線の高岡駅ビル「クルン高岡」への乗り入れについて 高岡市
2. 富山におけるLRT構想 室 哲雄氏
3. 吉備線LRT構想(岡山市)岡 将男氏
4. 鉄道を繋ぐ世界の軽快都市 服部 重敬氏

その後、15時20分〜16時00分まで「軽快都市を目指す 鉄路放談」と題しアンカー・富山



路面電車サミットin高岡本会議

大学芸術文 化学部長の 武山良三氏、副アンカー・島正範氏、パネリスト・岡将男氏、服部重敬氏・室哲雄氏による人口減少、高齢化社会に向けてのこれからの公共交通のあり方等、多くの示唆を頂いた。

富山、高岡、金沢等北陸地方は来年の春に開通する「北陸新幹線」に合せ、駅の大リニューアルが行われており、利用者に「歩かせない」「待たせない」「濡れさせない」をモットーに駅ビルの中まで路面電車を延伸し、大変便利にすると同時に、駅前の諸施設を回廊でつなぎ、中心市街地の活性化を計っている。16時30分からはハイブリットラムの試乗会があり、高岡駅より米島口までバッテリー車に乗ったが、バッテリーだらけの電車で、外国では架線レストラムの導入が続いているようであるが、日本ではまだまだ技術開発が必要であると思われた。今回は日帰りでの参加であったので、18時58分発に乗り、豊橋には23時35分に着いた。かなりの強行軍であった。今回のサミットに参加して見ることの大切さ(百聞は一見に如かず)と公共交通の連携の重要性を学ぶことが出来た。

(副会長・神野 紀郎記)

サミット記念交流会

交流会はサミットと同じビル内の「カフェアルダイニングBonn」で開催され、参加者は100人近く?おられたと思います。テーブル形式で私のお向かいには静岡市清水区の「LRTで結ぶ会」の皆様が座られました。パネラーの皆様や団体に参加されていない熱心なファンも多数参加され、たくさんの方と名刺交換させて頂きました。各会PRコーナーがございましたので「ビール電車」の運行回数が増えましたが、岡山のことを自慢させて頂きました。岡山のワイン電車など季節により毎日運行、頑張っておられる地域がある事も分かり、是非訪問・参加したい気持ちにも駆られました。山口智司会員と参加した2時間の楽しいひとときはあっという間に終了しました。(理事・杉浦 顕倫記)

はじめよう!環境に優しい交通行動

エコモビライフ推進表彰を受賞

エコモビライフ(エコモビ)の普及・定着に向けて「エコモビ」を広く啓発し、意義を知ってもらうとともに、「エコモビ」の実践を呼びかけるために「エコモビリテイアイフ県民の集い2014」が平成26年11月26日に愛知芸術文化センターで開催された。

席上「エコモビ」推進のための取組や、「エコモビ」活動を積極的にしている団体として、当会と名古屋市の特定非営利活動法人 市民・自転車フォーラムの2団



県知事表彰と伊奈会長

体が大村愛知県知事から表彰され、伊奈会長に表彰状が、鈴木美江理事が記念のトロフィーを受取った。続いて受賞団体による取組の発表が行われ、伊奈会長が写真や絵画を交えたスライドで活動を報告した。

記念講演を、「公共交通利用で、歩いて楽しいまちづくり」と題して、両備グループ代表兼CEOの小嶋光信氏が大変素晴らしいお話をされ、多くの示唆を受けた。当会からは会長以下7名が出席した。

佐原市長にエコモビ受賞報告と

活性化基金寄付

平成26年12月11日伊奈会長をはじめ、役員7名が豊橋市役所市長応接室を訪れ、西郷都市計画部長、斎藤都市交通課長立会いの下で、佐原豊橋市長にエコモビライフ推進表彰の受賞報告を行った。

その後、豊橋市地域公共交通活性化基金に対し本年度寄付、154100円(アイシデンオ)を贈呈し、路面電車のために活用してほしいとお願いした。佐原市長からは、寄付への感謝状が贈られた。

(当会の活性化基金への寄付の累計は、16,251,870円となった)

ええじゃないか豊橋市電タウンミーティング 市電のある街・豊橋を考える

豊橋鉄道株式会社は、大正13年に設立、創立90周年を記念した「ええじゃないか豊橋市電タウンミーティング」が、平成26年10月11日市役所13階講堂で開催された。豊鉄が地域の人たちと、今後の市電の役割や魅力を考えようということで、基調講演は

両備グループ代表CEOの小嶋光信氏が「たま駅長」にみる「まちづくり」と地域公共交通の再生」愛知大学の学生による「豊橋の路面電車の現状について」研究発表、最後のパネルディスカッション「市電のある街豊橋を考える」には、伊奈彦定会長もパネリストとして登壇。これからの市電や、愛する会活動のあり方、行政や事業者・市民への想いを熱く語った。



両備グループ代表CEO 小嶋光信氏



パネルディスカッション・伊奈会長(中央)

ええじゃないかとははし カーフリーデー・2014

「ええじゃないかとははしカーフリーデー・2014」のオープニングセレモニーが9月20日午前8時30分より、「ほの国ハイクینگ」のスタート地点の、豊橋駅東口サークルプラザで開催された。

豊橋市民一人一人が車と都市、車と地球環境、車と都市文化等、持続可能な都市交通や移動方法について考える日として、昨年引き続き2回目の開催となった。主催が豊橋市・協力は中部運輸局・愛知県・豊鉄・東海交通・愛する会等であった。佐原市長の、市民へ、カーフリーデーの普及を目指していること、市職員における「とよはしe-k-o-2-k-i-n運動」等の色々な取り組みについて挨拶があり、こども未来館では、当会の広田智理事提供のミニ新幹線の運行、「ほつトラム」のペーパークラフト、路線バスこども運転免許証、タクシー運転手体験等々のイベント、カーフリーデー公共交通通おかえりきつぷのプレゼントやカーフリーデーの展示ブースも設けられ多くの親子連れの賑わった。

「ええじゃないかとははしカーフリーデー2014」のオープニングセレモニーが9月20日午前8時30分より、「ほの国ハイクینگ」のスタート地点の、豊橋駅東口サークルプラザで開催された。



「カーフリーデー2014」に集まった市民の皆様

市電と幼き日の思い出



満田 稔

私は東田で幼少期を過ごしました。坂上と東田電停と車庫が、家の近くにありました。物心ついた頃から、市電を始めとした鉄道に大きな興味を持ちました。

市電が車庫に入りますのが不思議でどうゆう仕組みなのか、ポイントの転換や車輪の動きを屈んで良く見ました。当時の市電は今のZ型パンタグラフと違い、先に輪のついたポールで架線から集電していました。終点の東田電停で方向転換のために、ポールをロープで引き車体の外を半周してから、先の輪を架線にはめるのが車掌の役割でした。二回ではめた車掌をすごいと思



市電という安心感



伊藤 晴康

子供のころから市電沿線に住んでおりましたので、市電には愛着があります。現在も井原電停の近くに住んでおります。自家用車を運転するようになり、一時は市電に乗る機会が少なくなりましたが、最近また市電を利用する機会が増えました。

50歳に近くなつたころから、健康のことを考えて、一日一万歩を目標になるべく歩く機会を持つようになっています。平日は徒歩通勤で十分達成できますが、休日は意識的に歩く必要があります。そこで、休日には散歩することを心がけております。

夏の暑い時期や雨の降りそうな時など、散歩するのを躊躇する時があります。そのよう

い、何回やつてもはまらない車掌を手下だと思いなしました。

61年前の東田小学校6年生の時です。修学旅行で京都に行くので、朝早く市電を出していただきました。初めての修学旅行で全員が興奮して電車に乗りました。運転手はなんと同級生の堀部君のお父さんでした。「あー堀部君のお父さんだ」と皆んな叫びました。お父さんは申し出て早朝の運転を担当したのでしよう。和やかな雰囲気修学旅行は始まりました。

同級生の山田君のお父さんも車庫に勤めていました。街に出るのにみんな市電に乗りました。市電の町東田と言つて良かったのではないかと思います。市電を中心にしてほのほとした空気が流れていました。

豊橋に市電が走り始めて90年、町に溶け込み、町の人々を繋ぎ、町の未来を描く市電として、いつまでも走り続けるように願っています。

(学校法人桜丘学園理事長)

なときに、市電の電停が近くにあると大変心強く思われます。私の場合、市内の散歩の目的地を豊橋駅周辺にすることが多く、この場合の移動経路は、ほぼ市電沿線です。市電があるおかげで「疲れたら市電に乗ればよい」とあるいは、「雨が降ったら市電に乗ればよい」との安心感から、気軽に散歩に出かけられます。

季節の花が咲くのを見たり、歴史を物語る建物を鑑賞したり、昭和の香りのする古い自動車を見つけて喜んだりしながら街を歩くのは、休日のささやかな楽しみです。井原から豊橋駅まで往復歩くことですが、疲れるので、必ず最後には市電のお世話になります。これからも市民の足として、市電がこの街を走り続けることを願っています。

(学校法人藤ノ花学園理事長)

平成26年「路電の日」行事

「明治村探訪とアサヒビール工場見学」

6月22日、お天気男の効果もなく小雨模様、一人の遅刻もなく定刻8時駅前出発、いつも安全運転の豊鉄観光バスにゆられて「路明治村」へ。

伊奈会長から参加の皆さんにご挨拶、豊鉄の村井さんから日程説明、お茶やお菓子の配布、続いて神野副会長から豊橋で撮影が行われた「ルーズベルトゲーム」の裏話から苦労話まで興味深いお話、服部副会長指揮による「市電唱歌」の合唱、続いて片岸副会長が体験した豊鉄定期バス女性運転手の心温まるお話、大辻副会長からは「路電の日」の意義と今日「日」が皆さんの交流と思いつき、最後にバス旅行恒例？のドンバラ節を合唱しているうちに9時45分定刻通り明治村に到着。

既に名古屋から直行の神野義郎顧問にお出迎え頂き恐縮。小雨も霧雨に変わり午後には回復して暑くなりそうな気配、小休止の後、明治村ガイドの梅村隆さんの先導で見学をスタート、聖ヨハネ教会堂(1907、京都五条に建築)、三重県庁舎(1879建築)、西郷従道邸(1877建築)、森鷗外／夏目漱石住宅、東松家住宅(1901名古屋木造三階建)等々、ガイドさんの名調子で明治時代にタイムスリップ、新緑の古き良き時代を楽しむ。昼食時間となり皆んな夫々好みの明治グルメを目指して自由解散、牛鍋大井肉店・和食処碧水亭めんな処なごや庵・食道楽のカフェ：小生どこに行

こうか迷いに迷って明治の洋食屋浪漫亭に決定、目の前に停まっていた「京都市電」に乗って終点で下車、暫く歩いて浪漫亭に到着、デミグラスソースのオムライスはとても美味かった。

食後は自由散策、頑張って入口から一番遠い帝国ホテル正面玄関まで行った人も13時には全員集合、記念写真を撮ってお土産買って13時15分出発。(残念な話がつ、伊奈会長が期待していた名古屋市電の展示が明日からシートが被っていて隙間から覗くことも出来なかつた。また来ましようよ！明治村は1965年に開園し来年が50周年かも?)

14時30分アサヒビール名古屋工場到着。さあ下戸も頑張つてジューズを飲むぞー控室で会社や商品の説明を聞き外へ、巨大な発酵熟成タンク群に驚き、工場内へさすが大企業オールドトメーションで人が一人もいない、と思つたら今日は休日。いよいよ試飲タイム皆さんの目が輝いている、おつまみ付きで飲み放題状態(本来は2杯目までのお約束らしいが外



明治村の小学校で「童心」に返って

で見た巨大タンク群があれば大丈夫と)皆さん良い顔色になって気分よくお土産買って16時大体揃ったところで出発。小生、春日井ICまでの渋滞で車酔い；ビールで酔えばよかったと後悔！高速へ入ってドンバラの合唱、キーのご指摘があつてかなりレベルアップ、来年が楽しみだ。旅の最後はビンゴゲーム、伊奈会長の色紙2枚を巡つて大騒動、さて誰がこの幸運を射止めたか？ 豊橋市内に入り、神野副会長より今日一日楽しく無事に終了したことへのお礼の挨拶があり駅前にて解散。来年は何処へ行きましようか、楽しみます。

(副会長 黒谷尚弘記)



京都市電に乗りました (写真提供・理事 中野和彦)



明治の美男美女にタイムスリップ

ビール電車・おでんしゃ



8月22日 楽しく盛り上がりつつ素晴らしい会となりました。

(写真提供・河合敏夫会員)



11月27日 暖かく、やさしく、愛する会の素晴らしさを満喫しました

編集後記



市民の皆様方や、伊奈会長はじめ、愛する会会員の強い想い「LRTの路線延伸」に向けて、私達愛する会もその決意を新たにしなければなりません。挑み続ける者だけがその理想を叶えることができるのですから、伊奈会長が渾身を込めて描いて下さった「未来の豊橋LRTゆめ路線」に多くの市民の皆様と連携し、挑み続けたいと思います。《乗ろう、のはそう、みんなの市電》本年もどうぞよろしくお願致します。

(副会長・大辻 太郎記)